



る う て る



2019年
5月
No.857

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>

■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 李明生 koho@jelc.or.jp

■印刷 ■ 精文堂印刷株式会社

■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)

■振替口座 ■ 00190-7-1734

説教「あなたがたに平和があるように」

日本福音ルーテル教会 牧師 木下 理

イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

弟子たちが主の復活を信

じる信仰をもっていたのであれば、キリストは何度も復活の姿を弟子たちに見せるには及びませんでした。

復活は人類の歴史がかつてない大きな出来事でしたから、弟子たちが復活を容易に信じることはできなかつたのも無理はありません。

それにしても、弟子たちにご自分の復活を信じさせようとするキリストの努力は、並々ならぬものでした。

主イエスの復活を信じてエマオから引き返してきた2人の弟子と、エルサレムに残っていた弟子たちとが、互いに復活のイエスについて語り合っている、イエスが自身が再び復活の

姿を現されました。

そしてイエスは、弟子たちの真ん中に立って、「あなたがたに平和があるように」と言われました。弟子たちは恐れて幽霊だろうと思いましたが、イエスは、そんな弟子たちに、「なぜ、うろたえているのか。どうして心に疑いを起こすのか。わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしだ。触つてよく見なさい。亡霊には肉も骨もないが、あなたがたに見えるとおおり、わたしにはそれがある」と語られました。

それでもなお不思議がつている弟子たちに、イエスは「ここに何か食べ物があるか」と言われました。弟子が焼いた魚を一切れ差し出しますと、

イエスはその魚を彼らの前で、いつものように食べられました。復活の体に、空腹を満たす必要はありません。焼魚を弟子たちの前

で食べられたのは、復活を彼らに確信させるための、愛と憐れみの行為であつたと思います。

ところで、使徒言行録9章3節以下には、パウロが回心へと導かれたときのこと記されています。「サウロが旅をしてダマスコに近づいたとき、突然天からの光が彼の周りを照らした。サウロは地に倒れ、「サウル、サウル、なぜわたしを迫害するのか」と、呼びかける声を聞きます。「主よ、あなたはどなたですか」と言つと、

答えがありました。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。起きて町に入れ。そうすれば、あなたのなすべきことが知らされる」とあります。パウロは生前のイエスと生活を共にしていた、いわゆる弟子ではありません。しかし彼は、「イエス・キリストとキリストを死者の中から復活させた父である神とによって使徒とされたパウロから」と、ガラテヤの信徒に宛てて手紙を書き



とりに、強い影響を与えた言葉でした。この言葉が彼らの心に生きて働くために、主イエスは何度も何度も復活の姿を弟子たちの前に現わし、自分の手足を見せ、魚を食べて、自分が復活したことを証明してくださいました。並々ならぬ、主イエスの努力です。わたしたちは、キリストご自身の証しを、素直に信じたいと思います。

「あなたがたに平和があるように」という言葉は、2千年前の弟子たちだけに語られた言葉ではありません。歴史を通して、現在を生きているわたしたち一人ひとりに語られている言葉です。主イエスは今も、わたしたちの生活しているところに出かけて来て、日常茶飯事と思われるような平凡なことがらを通して、わたしたちに話しかけてくださいます。また、職場や家庭での色々な問題を通して、ご自分が復活されたことを示してくださいませ。

この主イエスに接するならば、わたしたちの心は穏やかにされるに違いありません。

キリストは、今も説教者や証し人や奉仕者を用いて、「あなたがたに平和があるように」と伝え続けておられます。皆さんお一人おひとりのうえに、主の平和がありますように。

「あなたがたに平和があるように」との言葉は「サウル、サウル、なぜわたしを迫害するのか」とパウロを回心させた言葉と同じように、弟子たち一人ひとりに、強い影響を与えた

言葉でした。この言葉が彼らの心に生きて働くために、主イエスは何度も何度も復活の姿を弟子たちの前に現わし、自分の手足を見せ、魚を食べて、自分が復活したことを証明してくださいました。並々ならぬ、主イエスの努力です。わたしたちは、キリストご自身の証しを、素直に信じたいと思います。

「あなたがたに平和があるように」という言葉は、2千年前の弟子たちだけに語られた言葉ではありません。歴史を通して、現在を生きているわたしたち一人ひとりに語られている言葉です。主イエスは今も、わたしたちの生活しているところに出かけて来て、日常茶飯事と思われるような平凡なことがらを通して、わたしたちに話しかけてくださいます。また、職場や家庭での色々な問題を通して、ご自分が復活されたことを示してくださいませ。

この主イエスに接するならば、わたしたちの心は穏やかにされるに違いありません。

キリストは、今も説教者や証し人や奉仕者を用いて、「あなたがたに平和があるように」と伝え続けておられます。皆さんお一人おひとりのうえに、主の平和がありますように。



コラム
直線通り
久保彩奈

⑭「そして今、神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます」(使徒言行録20・32)

船で旅立つ友人を港で見送りました。東京から北九州まで運航する、そのフェリーの全長はなんと191m、想像を超える大きさでした。フェリーの後ろ姿は真四角でまるで箱のよう。創世記のノアの箱舟を思い出させました。

ノアの箱舟はその名の通り、まさに「箱」で舵も帆もありません。つまり行きたいところに自らの力では行けないのです。また箱舟に動物たちと家族が乗り込み、最後にノアが乗り込むとき、その戸を閉めたのは神様でした。強い主導権をもって、神

様はノアとその家族を導いていくのです。わたしたちの歩む人生も、まさに箱舟の船旅のようではありませんか。自分で選択し決断したと、あたかも舵を握って運航しているのは自分だという思いを捨て、全てを委ねて生きていく。そして、委ねた先の新しい地で、神様の与える希望と祝福があり、虹がかかるのです。

「そして今、神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。この言葉は、あなたがたを造り上げ、聖なる者とされたすべての人々と共に恵みを受け継がせることができるのです」(使徒言行録20・32)

かつてノアがしたように友人も、まだ見ていない事柄を恐れかこみながら受け継ぎました。わたしも、わたし自身の人生を神様に委ねながら生きる者になりたい、と切に願うのです。恵みのひだまりを受け継いで。



復活の体に、空腹を満たす必要はありません。焼魚を弟子たちの前で、いつものように食べられました。復活の体に、空腹を満たす必要はありません。焼魚を弟子たちの前

「あなたがたに平和があるように」との言葉は「サウル、サウル、なぜわたしを迫害するのか」とパウロを回心させた言葉と同じように、弟子たち一人ひとりに、強い影響を与えた

言葉でした。この言葉が彼らの心に生きて働くために、主イエスは何度も何度も復活の姿を弟子たちの前に現わし、自分の手足を見せ、魚を食べて、自分が復活したことを証明してくださいました。並々ならぬ、主イエスの努力です。わたしたちは、キリストご自身の証しを、素直に信じたいと思います。

第21回ルーテル子どもキャンプ

2019年 8/6(火) - 8(木)

場所: ルーテル学院大学 / ルーテル神学校

第21回ルーテル子どもキャンプ



議長室から 大柴謙治

そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびたしい魚がかかり、網が破れそうになった。(ルカ5:4-6)

「大柴先生、イエスさまがなぜ漁師を最初の弟子

網仕事(ネットワーク)

「話し終わったとき、シモンに、『沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい』と言われた。シモンは、『先生、わたしたちは、夜通し苦勞しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう』と答えた。

とされたかをご存知ですか。『……?』「漁師は網を仕事道具にしているでしょう。だから主の弟子たちである私たちもまた『網仕事(ネットワーク)』に従事するように召し出されているのです。

ドイツにも日本の宣教のために長く熱く祈り続けてきたドイツ人(すべてのパートナーチャーチにはそのような祈りのネットワークがあります)。その言葉を伺って私の中では

「なるほど」とすべてがスポンと腑に落ちました。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」(マルコ1:17)という主の召命の言葉の意味が分かったように感じました。確かにそうですね。私

た弟子の事はキリストのセイフティネットワークという網の中に人々をすくい上げる仕事なのです。それは本当の意味で一人ひとりを生かすネットワーク構築の仕事です。日本社会は確かに物質

的に豊かになり便利になりました。しかし同時に、社会では多くの人々が孤立感を深めています。「こころ／魂」に焦点を当てるとらば、その飢え渴き(スピリチュアルニーズ)はこれまで以上に大きくなっています。現在61万人もの「中高年のひきこもり」がいると最近伝えられています。SOSを発する声がそこかしこから聞こえてきます。私たちがいのちの網を紡いでゆく務めはさらに重要になっています。

既に関わっておられる方も少なくないと思いますが、様々な次元でネットワークの構築が求められているのでしょうか。

夜通し努力したにもかかわらず、何の収穫もなく徒勞と失望の中にある弟子たちに復活の主は命じました。「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」(ルカ5:4)。「沖」とは「さらに深いところ」という意味です。「お言葉ですが」というペトロの言葉には「お言葉ですが」というアンビバレントな気持ちをも感じます。

「なるほど」とすべてがスポンと腑に落ちました。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」(マルコ1:17)という主の召命の言葉の意味が分かったように感じました。確かにそうですね。私

4月2日、ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校入学式が行われ、ルーテル学院大学総合人間学部136名、大学院21名、そして神学校としては2年ぶりに



新入生を迎えて日本ルーテル神学校が新年度へと歩み出しました

新入生6名を迎えました。

登録有形文化財へ

「日本福音ルーテル久留米教会礼拝堂」及び「煉瓦塀」

昨年11月、日本福音ルーテル久留米教会礼拝堂は献堂百周年を迎えました。そして更にこの度、礼拝堂及び煉瓦塀が国の登録有形文化財に登録されることとなりました。多くの喜びを皆様と分かち合えますことを、本心に嬉しく思います。

振り返れば数年前、中島康文牧師から文化財登録を薦められ、手続きに詳しい

大学の先生をご紹介頂き、色々とお教授頂きました。それから半月ほど、今度は近所の設計事務所の方が訪ねて来ました。連絡を受けたのかと思いきや、そうではなく、全くの偶然。曰く、文化財に関するワークショップで文化財登録の書類を書くことになり、その題材を探しているとのこと。渡りに船とはこのこと、実際に申請を書いて頂くことになりました。

内々の歴史的な建造物を見て回っているとのこと。経緯を話すと文化庁の方も「素晴らしい建物です、これから登録は間違いない」と太鼓判を押してくださいました。一か月も経たない内にこれだけの事がありますと、「ああこれは文化財登録をせよとの神様の導きだ」と、もはや疑う余地はありませんでした。

そして、今回の登録です。思いがけないこともありました。献堂百周年の講演会の講師の先生や文化財登録の為に調査に来た方が、教会の塀を見て「これは貴重なものだ」と言うのです。こ

の塀は煉瓦積みみの表面に擬石づくりで装飾が施されており、大正時代のものがこうして現存しているのはとても珍しいとのこと。実は壊してフェンスにしようかなどと話していたのですが、慌てて撤回し、今回煉瓦塀も併せて文化財登録されることとなりました。

今回の文化財登録によって、より多くの方に教会を知っていただけることに感謝すると共に、それを通して神様と出会う方が一人でも増えてくれればと、久留米教会一同、心より願っています。



↑久留米教会礼拝堂内部



←久留米教会礼拝堂外観



↑久留米教会煉瓦塀



建築家 W・メレル・ヴォーリス



「3・11を覚える 礼拝」に出席して

徳野昌博
(東教区長・小石川教会)

3月10日、四旬節第一主日の午後3時から、東京池袋教会において東教区主催の「3・11を覚える礼拝」が持たれ、約50名が集まりました。礼拝では、日本聖公会の信徒で聖公会東京311ボランティアチーム代表の楡原民佳さんが、ご自身が現在も関わっておられる



日本福音ルーテル教会・社会委員会

③ヘイトスピーチを考える
社会委員会 秋山 仁

ヘイトスピーチ、それは人種や民族、国籍、宗教あるいは性別、障がい等を理由とした、個人や集団への差別や憎悪を表現した発言・行動をいいます。およそ2009年頃から社会問題化してきました。ヘイトスピーチを行っているのは、主に「ネット右翼」と呼ばれる人たち、もしくはそ

活動について語られました。それは、被災地からの避難者、特に子どもたちが避難先で体験させられている過酷ともいえるいじめの実態、そして、その子を支える母親をはじめとする家族の追いつめられている現状、そして、周囲の無関心あるいは排除といった厳しい現実でした。天災を人災へと変質させ、拡大していく、私を含む人間の罪の真相を突きつけられ、胸をえぐられる思いで聞いたのは私だけではないでしょう。

私たちは決して恐れない。地が姿を変え、山々が揺らいで海の中に移るとも、海の水が騒ぎ、沸き返り、その高ぶるさまに山々が震えるとも。(詩編46)との御言葉を聞き、創造主なる神様に深く信頼を寄せ、祈りを込めて、励まされ、困難な道を行っていただける方々に思いを馳せました。

この先、過ぎた8年よりも、長い長い道のりになるでしょうか。挫折すること、もたびたびであると思いつつ、希望を失わず、どこまでも粘り強く、手を携えて共に歩んでいきたいと願わされ、祈りを一つにしました。

宣教の取り組み 九州教区 「天皇代替わりにあたって」 文書発行

九州教区には、多くの社会福祉施設と学校が存在し、日常的に教会と共に宣教を担っています。このことから九州教区常議員会はこの度の「天皇代替わり」とそれを取り巻く社会の動きに際し、キリスト教として大切にしたいと思われ、これをまとめ、各施設や多く送付しました。その内容を各々が合意し、それぞれの考えや歩みへの参考にしていただければと考案しています。(文書全文)

九州教区には、多くの社会福祉施設と学校が存在し、日常的に教会と共に宣教を担っています。このことから九州教区常議員会はこの度の「天皇代替わり」とそれを取り巻く社会の動きに際し、キリスト教として大切にしたいと思われ、これをまとめ、各施設や多く送付しました。その内容を各々が合意し、それぞれの考えや歩みへの参考にしていただければと考案しています。(文書全文)

天皇代替わりにあたって

日本福音ルーテル教会九州教区に属する社会福祉法人、学校法人、ならびに、各幼稚園、各保育園、各認定子ども園、乳児保育園、各学校、各施設の皆様

主のみ名をほめたええます。皆様にありますは、日ごころから、主の愛のみわざのためにご尽力いただいております。心より感謝し、敬意を表するものであります。さて、今年の4月30日に現天皇が退位し、5月1日に新天皇が即位することが決まり、代替わりに伴い、様々な儀式が執り行われることになっていきます。

す。それはわが国では「西暦」と呼ばれていますが、A.D.(Anno Domini)は「主イエス・キリスト」の年の略です。天皇の代替わりによって新しい元号への関心もおありかもしませんが、この機会に、改めてキリスト教主義の法人、キリスト教主義の学校、キリスト教主義の幼稚園、キリスト教主義の保育園、キリスト教主義の乳児保育園、キリスト教主義の社会福祉施設として、何よりも「2019年の今」であること、を大切にしたいと思っております。

も協力を要請されているに過ぎないことですので、私たちはいかなる時でも「主の年」を重んじて、「2019年」と書くことができます。さらに、天皇家の中からも疑義が出されているのを見るまでもなく、30年前の代替わりの際に「大嘗祭」をはじめとする一連の儀式が憲法で定める「政教分離」を無視したものであることなどに対して、私たちは少なからず疑問を持っており、それらの過剰な動きがかつての軍国主義へと進んでいくことを懸念しています。今年行われる代替わりの諸儀式等をどのように受け止めるのか、個人個人においては自由です。しかし、「ただひとりの神を信じ、その神様の愛はすべての人に等しく注がれている」ことを信じるキリスト教の法人、学校、施設、保育園、幼稚園、子ども園にあっては、職員だけでなく園児、生徒、学生、利用者、そのご家族の方々に、私たちの立つべきところはここにあるかを示していくためにも、今回の代替わりにおける「過」ごし方を考えたいと思っております。

の考えに賛同する人々です。彼らは「愛国」を掲げ、在日韓国、朝鮮人をはじめとする在日外国人が「日本で特権を享受している」との嘘・デマの情報をインターネット上で流布させ、偏見や排斥感情を煽っています。彼らは「嫌韓(韓国)」「嫌中(中国)」といった言葉を生み出し、それらの書籍が本屋の店頭で売られるようになりまし。

彼らの攻撃対象は在日外国人だけでなく、被差別部出身者や障がい者、同性愛や性同一性障がい者等の性的少数者、あるいは、生活保護受給者にも及びます。「福祉にただ乗りしている」「生活

保護を不当に受けている」というのが彼らの言い分です。さらに「反原発」や「沖縄の基地建設反対」を主張する人々に対しても「反日」というレッテルを貼り、しきりと誹謗中傷を繰り返すのです。そうした風潮の中で、ネット上だけでなく、大阪や東京等の都市部を中心に、街頭での「あからさまなヘイトスピーチ」が行われるようになっていきました。「市民団体」を名乗り、毎週のように各地の在日外国人多住地区等に集まり、マラソンをもって極めて差別的な罵詈雑言を浴びせかけるのです。京都では朝

の校門前で、「スパイの子は日本から出て行け」「朝鮮人は人間以下」などの発言を繰り返した事件もありました。2016年に国会でヘイトスピーチ規制法が成立し、また大阪や東京でもヘイトスピーチを規制する条例が制定されていますが、法的に取り締まる効力はありません。「言論・表現の自由」を妨げてはならないといふのです。

した犯罪にも通じるものです。私たちは、差別や憎悪を煽る言葉に対して、立ち向かわなければなりません。差別や偏見を根絶するためには、先ず「人間の尊厳」を大切にする価値観に拠って立つことです。

それを聖書は教えてくれています。なぜならイエス様は人を偏り見ることなく、一人一人をかけたえのない存在として大切に愛されたからです。そして社会や歴史について嘘・デマに惑わされない正確な知識を身につけること、と様々な人々との出会いと対話を通して、相手を思いやる共感力を養うことが必要です。

九州教区の常議員たちで話し合い、この手紙を送ることにしました。皆様の上に、神様の恵みと平安がありますように。主のみ名によつて。

また、キリスト教の信仰に生きる者にとっては「平成」や「新しい元号」よりも、「2019年」こそ、意味のある年で

また、キリスト教の信仰に生きる者にとっては「平成」や「新しい元号」よりも、「2019年」こそ、意味のある年で

また、キリスト教の信仰に生きる者にとっては「平成」や「新しい元号」よりも、「2019年」こそ、意味のある年で

また、キリスト教の信仰に生きる者にとっては「平成」や「新しい元号」よりも、「2019年」こそ、意味のある年で

また、キリスト教の信仰に生きる者にとっては「平成」や「新しい元号」よりも、「2019年」こそ、意味のある年で

また、キリスト教の信仰に生きる者にとっては「平成」や「新しい元号」よりも、「2019年」こそ、意味のある年で

また、キリスト教の信仰に生きる者にとっては「平成」や「新しい元号」よりも、「2019年」こそ、意味のある年で

2019年3月15日

日本福音ルーテル教会九州教区常議員会

第26回 春の全国ティーンズキャンプ報告

関 満能
(宣教手NG委員会Teens部)

今年も各教会を始めとする多くの方の祈りと、日本福音ルーテル社団、各教区、女性会連盟などの皆さまのお支えにより、第26回春の全国ティーンズキャンプを開催し、恵みのうちに終了することができました。本年はキャンパー75名、スタッフ39名が当日参加しました。感謝と共に報告いたします。

今年のテーマは、「創造でした。神はお造りになられたすべてのものを御覧に

なりました。見よ、それは極めて良かった」(創世記1:31)とのみことばを主題聖句とし、神さまが私たちの「存在」そのものを肯定してくださっていることをキャンパーとともに分かち合いました。

プログラムでは、キャンパー一人ひとりがグループリーダーや牧師から名前を呼ばれ、「あなたは極めて良い」との言葉をかけられる場面がありました。そこでは、涙するキャンパー(そしてスタッフも)少なくありませんでした。12歳から18歳までのキャンパーはこの3日間を通してそれぞれに「極めて良い」という神さまからのみことばを受けとっていったことと思います。

最後に、キャンプ中のキャンパーの声をお分かちします。プログラムに神さまからの「極めて良い」というメッセージを受けとめられないことを考える時間があったのですが、その際多く見られた意見を紹介します。

「問い／神さまからの極めて良いとのメッセージを受けとめるにはどうしたらいいか」

「答え／教会へ行く」

これは、あくまでも答えのすべてではなく多く見られたものです。しかし、春キャンプに関わるスタッフの思いは、教会の働きである春キャンプを通して、キャンパーが教会につながっていくことを目指していただ

くことです。キャンパーが教会へ行くことに対する思いを少しでも持つてくれたことは、スタッフとして大変嬉しいことでした。芽が出るには時間がかかるかもしれませんが、着実に種は蒔かれています。

第26回 春の全国ティーンズキャンプ概要
開催日程／2019年3月26日～28日
会場／千葉市自然少年の家
テーマ／創造

「神はお造りになられたすべてのものを御覧に」(創世記1:31より)
キャッチフレーズ／
Very Good!



参加者／75名(北海道1、東2、東海12、西8、九州27) スタッフ／42名(準備だけのスタッフ含む)
キャンプ長／関 満能牧師

観福音書といわれるマタイ、マルコ、ルカ福音書を3年ごとに繰り返し読みます。共観福音書ではないヨハネ福音書は、四旬節や聖週間、復活節を中心に随所に組み込まれ、いずれの年にも読まれるようになっていきます。この構成は、現行の共通聖書日課もRCLと同じですが、これまでと比較してヨハネ福音書が多く取り上げられる傾向にあります。

公告

この度左記の行為を致しますので、宗教法第23条の規定に基づき公告致します。

2019年5月15日

宗教法

日本福音ルーテル教会

代表役員 大柴譲治

信徒利害関係人 各位

帯広教会池田礼拝堂建物取壊・売却

所在地 北海道中川郡池田町旭町3丁目

所有者 日本福音ルーテル教会

家屋番号 47番地1、

種類

教会

面積

① 140・87㎡

② 37・91㎡

牧師館

面積

① 72・90㎡

② 28・35㎡

宣教の取り組み

本郷ルーテルおいしいじかんフェスタ



本郷教会と本郷学生センターは、アメリカからの宣教師による英会話クラスを中心とした宣教が行われてきました。それを継続しながら、近年より一層地域に奉仕することを目的とし、子育て

サロンや野宿者支援、そして街のイベントとして「本郷ルーテルおいしいじかんフェスタ」を開催しています。平日夜に開かれていたキリスト教入門に参加する、いわば教会の「外」の人たちが、教会がこのあたたかな場を積極的にアピールしないのはもったいなく、地域や教会外の人にも知ってもらいたいという思いを得たことが始まりとのこと。当初、近隣の大学の学園祭に出店することも考えたのですが、それ以上に教会の建物と交わりが持つぬくもりを味わっていただ

ける場とすることを考え、教会を会場として街のフェスティバルを行うことになったのは5年前のことでした。音楽の演奏や日々の暮らしに役立つお話し、近隣の飲食店による出店、手作り雑貨やお菓子、ワークショップ、また教会や教会員が取り組んでいる様々な活動の紹介など、地域の方々と教会に連なる人たちが一緒に「おいしい時間」を味わうことになればと計画し、町会や消防団などの協力も得ることができたそう

教会が与えられている数えきれない恵み(宝)を「外」の人たちが掘り起こし、それを地域でわかちあうことが、従来行われてきたバザーとは少し雰囲気異なる機会となり、大勢の人がそこに集うこと自体を楽しみ、出合いを喜ぶ良い機会となつていきます。地域に「居場所」を提供する宣教活動は、地域社会からも期待されています。6回目となる今年の「本郷ルーテルおいしいじかんフェスタ」は、5月12日(日)に行われます。(広報室)

新たな聖書日課の導入について

改訂礼拝式文の公式使用が開始され、3月の按手式でも礼拝前の短い練習を経て、これを用いたエキュメニカルな聖書日課です。世界の各教会が教派を越えて、主日に同じ聖書テキストから同じみことばを聴こうという思いから、1992年に完成しました。世界の多くのルーテル教会もこの日課を採用しています。主日礼拝の聖書日課は3年周期で構成され、共

改訂礼拝式文は、新たな聖書日課と共に使用さ

れることを想定していますが、それが改訂(Revised)共通(Common)聖書日課(Lectio)であり、略してRCLと呼びます。これは主要なプロテスタント教会やカトリック教会が共同で取り組んで作ったエキュメニカルな聖書日課です。世界の各教会が教派を越えて、主日に同じ聖書テキストから同じみことばを聴こうという思いから、1992年に完成しました。世界の多くのルーテル教会もこの日課を採用しています。主日礼拝の聖書日課は3年周期で構成され、共

この度、RCLを公式に導入することとなり、2019年12月の待降節から、現行の聖書日課からRCLへ切り替えることとなりました。教会手帳へも反映していくこととなります。諸委員会や関係団体等が必要な場合には本年6月中旬から、週日の日課を含む情報をお渡しすることが可能です。事務局へお問い合わせください。(事務局)